

<p>1 学校教育目標</p> <p>自ら学び、考え、正しい判断のもとに行動できるよう豊かな人間性を身に付けた心身ともに健康な生徒を育成する。</p> <p>(1) 学級・学年や学校での集団生活を通して、市民生活や社会人としての基礎基本を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>(2) 自己の目標を実現する為、学業や資格取得に主体的・積極的に取り組む生徒の育成に努める。</p> <p>(3) 明るく、素直な心を持ち、人を思いやることのできる徳知体のバランスの取れた人間形成に努める。</p>
---

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>学習活動や学級経営・ホームルーム指導を通じた集団・仲間づくりや部活動やインターンシップ(キャリアチャレンジ)・実習・体験活動を通して「わかる・できる喜び・学ぶ楽しさや役に立つ・認められる喜び」を実感させ「一人ひとりが自信を持ち社会に必要とされる・貢献できる喜び」を体験させることを教育の指針とする。</p> <p>(1) 学力の向上 (2) 生徒指導と心の教育の推進 (3) 進路保障 (4) 部活動・生徒会活動・ボランティア活動・図書館(読書)活動の促進</p>
---

3 自己評価総括表		評価基準			評価	成果と課題
評価項目		A:できている	B:概ねできている	C:できていない		
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	建学の精神と教育目標・方針	学級経営への教育方針の反映 保護者との連携の促進	基本的な生活習慣の確立と健康管理や安全指導の充実を図る	・生徒一人ひとりの個性を把握し、学習面・生活面での意欲の向上に努める ・連絡網(安心メール)・ホームページ・電話自動受付等を通して保護者と連携を取り合う。 ・新型コロナウイルス感染予防に伴う健康観察アプリを導入し、適格な指導を行う。	A	新型コロナウイルス感染症により、学校行事の多くが中止・延期やリモートでの実施を余儀なくされたが、個人面談等を適宜行い、生徒一人一人の学習・生活面での向上・充実を努めた。健康管理が行われた結果、出席率・精進動・成績優秀となる生徒も多く、向上がみられる。
	教育環境の整備	教育環境整備を点検し、危険箇所等の早期改善を図る	教室、特別教室の安全点検と補修及び周辺環境の整備・充実を図る	・適宜、施設を点検し、危険箇所の補修・改善を行う	A	敷地内の公道を渡る教室移動も事故無く行っており、施設改善にも十分取り組んでいる。
学力向上	わかる授業への取り組み	生徒の理解度の把握	「授業への取り組みが消極的」以外の生徒の割合90%以上を目指す	各学期ごとに授業アンケートを行い生徒たちの授業に対する評価を確認し、おのの授業にフィードバックしました。全体的に1学期より2学期、2学期より3学期、授業の満足度は上がりました。	B	多くの教員、特に若い優秀な教員の授業への評価が高い一方、一部授業に不満を持たれている教員も一部見られます。そこが課題と言えます。
	学年の取り組み	学習習慣・基礎力の定着と検定等の合格	漢検、数検、英検、朝・夕の課外や宅習ノート、個別指導	総合ビジネス科、および数学科、英語科を中心に徹底した個別指導で意欲のある生徒達に応えました。	A	数年前と比べても検定合格者の数は飛躍的に伸びています。漢検、数検、英検といったスタンダードな検定を全校一斉に受けられるようになると思います。
キャリア教育 進路指導	進路目標の実現	・進路実現につながるキャリア教育の実践と基礎学力の養成 ・資格取得の推進 ・教育改革への対応	・進路講演会やガイダンスを実施し、職業観の育成と適性の模索をしていく中で進路の意識を高める。 ・社会人として対応できる「挨拶」を含むマナーの向上 ・オープンキャンパス及び企業見学の参加率100%を目標とする ・教育改革における大学入試共通テストや学びの基礎診断などの情報収集に努め教職員および生徒に還元する。 ・英語4技能評価やPDCAサイクルを踏まえたアクティブラーニングを取り入れた授業改革を検討する。	①LHRの活用や総合的な学習の時間との連携を図り、進路学習に取り組んでいく。 ②各学年、講演・ガイダンスを年3回以上実施を目指すとともに、各行事が有機的に連携するようにする。 ③e-learning(すらら、スタディサプリ)の活用 ④進路相談、個別面談の充実 ⑤外部講師による面接指導の実施 ⑥進路情報の提供 ⑦資格取得によるAO、推薦入試の活用 ⑧総合探究コースと総合ビジネス科ではインターンシップを通して職業体験を実施 ⑨各教育サポート業者からの情報収集や、研修セミナー等に参加し、本校の教育と生徒の実情に合わせた取り組みを検討・模索する。 ⑩これまで取り組みを強化してきた実用英語技能検定をはじめとする外部試験を比較検討する。 ⑪資格取得の促進と基礎学力向上を目的とする外部試験の導入。	B	①後付けではあるが、ガイダンス等を総合的な学習の時間として扱った。 ②6月の校内ガイダンス、10月のマイナビは実施できたが、その他はコロナの影響で実施できなかった。単発的にガイダンスは行った。 ③各授業単位で実施しており、特に特進コースは積極的であるとの評価を得ている。 ④進路室が遠いこともあるのか、働きかけたときは生徒は来室するが、日常的には来室が少ないように感じる。 ⑤社会人セミナーにおいて、実施し有効であった。 ⑥進路だよりなどを通じて広く深く適用することも検討したい。 ⑦総合ビジネス科の検定による大学受験が一部行われた。 ⑧コロナの影響で実施が困難。 ⑨コロナの影響で実施されないことが多かった。 ⑩各科・教科で検討し実施している。

						①基礎力診断テスト・就職模試などを校内選考の検討材料にしている。
	一人ひとりの進路目標達成	・個に応じた進路指導の推進	・多様化する生徒の進路目標への対応の推進 ・多様化する入試制度への対応 ・課外、資格対策の充実	①オープンキャンパス等への積極的参加 ②入試傾向の分析と対策の充実 ③課外、模試、学習合宿等の実施 ④校内外の進路ガイダンスへの参加 ⑤組織的な個別指導、面接指導の充実 ⑥小論文・作文指導の充実と負担軽減に取り組む ⑦企業や各種上級学校の情報を早期に知る	B	①積極的に参加を促した。コロナの影響でリモートが増えた。 ②特進コースを中心に受験時に担任を中心に検討している。 ③例年通りに実施しているが、コロナの影響を受けた。 ④ガイダンスへの積極的な参加を促したが、コロナにより実施されないものもあった。 ⑤面接指導は全職員による面接カードの指導が定着したが、指導を嫌い一般入試のみを選択する生徒もいる。 ⑥小論文は国語科の教員が分担して行った。 ⑦コロナの影響で来校・来客や企業訪問が少なく、情報入手に課題がある。
生徒指導	交通ルールの徹底	交通マナーの向上と登下校時の交通事故防止	登下校時における学校周辺の一列励行と盗難予防の意識を高めるための二重ロックの徹底。また、校舎間における公(市)道の横断の安全性を高める。	登下校時の交通指導と二重ロックの点検を定期的に行い、普段から校舎間の移動に対する注意喚起を行う。	B	朝は毎日生徒指導室常駐者で生徒通用門に立ち、立ち番指導をしていた。ただし登下校での接触事故も3件(自転車)報告されており、重大事故には至らなかったものの、生徒のマナー違反も確認されている。今後も、生徒に交通安全を訴えていくべきだと考える。
	校則に対する規律意識を高める	校則に対する自主的な規律意識の有無	SNSなどのインターネットを介した誹謗中傷等による生徒間の問題を減少させる。	「SNS」や「薬物防止」等の講話を実施し、生徒の防犯意識を高めるようにする。	B	今年度の問題事例の中には、SNSがらみの事例も多数あり、もっと方策を練るべきではあった。来年度も、新型コロナウイルスにより集会や、講話ができないことも考えられ、生徒部通信などの啓発活動をより頻繁に行うべきだと考える。結局、今年度の講話はできずに終わっている。
人権教育の推進	職員の人権意識向上	生徒の人権に配慮する力の向上	生徒の人権に配慮する力の向上	校内研修の充実	B	今年度から、LGBT対応として男子も女子も着用できる制服(ズボン)を採用した。業者との関係で、現行で可能な限り対応したが、その後のきちんと対応した新デザインの策定に向けての準備を進めているところである。
	生徒の人権意識向上	他を尊重する態度の育成	他を尊重する態度の育成	研修の充実、日ごろの教育活動における指導の充実	C	新型コロナウイルス感染拡大のために、授業数の確保を優先しなければならなかったこと、また、体育館に一同に集めて研修を行うとなると、密になるため実施が出来なかった。今後も、感染は続くと思われるため、このような状況の中でどのような取り組みができるのかを、次年度検討し実施していきたい。
いじめの防止等	いじめの実態把握	いじめの早期発見に努める	いじめに対する学校としての方針を徹底すると同時にそれらを生徒に周知する機会を設ける。	いじめをしない、させない、そしていじめを許さない学校としての方針を集会等で話す。	A	心のアンケートを実施することで、あがってきた事案を慎重に取り扱い、お互いの融和に努められたことはよかった。しかし、アンケートに書かれることは、氷山の一角で、私たちが知らないところで、進展する場合も考えられる。学年団と連携し、

					今後も素早い取り組みが求められる。
	指導体制の整備	各部署との連携を図り、いじめを未然に防ぐことのできる体制づくりに努める。	常日頃から担任、学年主任、そして教育相談、スクールカウンセラー、生徒指導部の連携を図る。	いじめ防止対策委員会を機能させ、指導体制の組織化を図る。	A 担任および学年主任と連携が取れていた。未然に防げなかった事案もあるが、粘り強く辛抱強く取り組み、きつい思いの生徒を助ける努力ができていた。先にも出てきたが、SNS の問題からのトラブルや、問題事案が増えているので、今後とも各部署や学年団と綿密な連携をしていくべきだと考える。
図書館教育	読書活動の充実	読書活動の推進	生徒が主体的に図書館を利用し読書活動ができるよう環境を整える。	生徒のニーズに応じた書籍を仕入れる。定期的に企画を考え、図書館に興味を持ってもらえるようにする。	B ・1学年に対して学級文庫のための本を毎月貸出した。
	各教科との連携	蔵書に偏りなく豊富な資料の確保	どの教科の授業でも、調べ学習等で図書館を利用できるように、幅広い資料をそろえる。	現在、図書館にある資料が古くなっていないかを確認し、必要に応じて資料の更新をする。	B ・図書館だよりを発行し、新着図書のお知らせを行った。
学校保健	心身の健康に興味・関心を持ち、主体的に健康で安全な生活を送ることのできる生徒を育成する	心身の健康への興味関心の向上と、健康管理・傷病予防の為に実践力育成	①生徒が自身の健康状態を把握・保持増進する機会を設ける ②心身の健康に対する興味関心の向上と正しい知識の習得 ③生涯にわたり自他共に健康で安全な生活を、主体的に送るための知識習得や自尊心向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健調査票や健康診断の結果などをもとに個別指導・校外連携を行う</li> <li>・保健室来室時、再発の予防や適切なセルフケアの方法を指導する</li> <li>・配布物や掲示物等を活用し、季節に応じた保健便りの発行及び校内掲示物の工夫を図る</li> <li>・生徒保健委員会活動を通し、健康に関する情報発信の機会を設ける</li> <li>・生徒対象の普通救命講習(修了証の交付、講師:消防署)を年1回実施</li> <li>・外部講師等による講演を実施</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・保険調査票や健康診断結果を基に生徒へ個別対応を行い、必要時には教職員や保護者との連携を図った。また、定期健康診断の事後対応として、治療や精密検査等が必要な各家庭に受診勧告し、受診結果に応じた対応を行った。今後も学校検診及び各家庭での受診率向上を目指し、教職員や保護者との連携を取りやすい関係を築いていくことが求められる。</li> <li>・体調不良や負傷等で来室した生徒に、それらが生じた原因や背景だけでなく予防法と一緒に考えながら対応するよう心がけた。今後はセルフケアや疾病予防の観点から、より生徒が納得できるような、わかりやすく簡潔な説明ができるよう意識していきたい。</li> <li>・保健室前掲示板には季節に応じた写真社新聞の記事やポスターを掲示し、生徒の健康への意識向上や学びが深まるよう働きかけた。次年度は保健便りの発行等にも力を入れ、生徒が健康情報に触れる機会を増やしていきたい。</li> <li>・感染予防の観点から、昨年度に引き続き普通救命講習や献血セミナー等を中止。次年度は感染予防策を講じながら、学習の機会を設けたい。</li> </ul>
			学校環境の整備を行い、美化意識の向上を図る	環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>①清掃指導の徹底及び環境美化の意識を高める活動の推進</li> <li>②法に基づいた学校環境衛生の維持管理及び改善</li> </ul>

					家の意見を参考に継続的対応が必要となる。 ・例年行っている環境検査を始め、感染対策関連について学校薬剤師の指導助言をもとに対応を行った。
--	--	--	--	--	---

#### 4 学校関係者評価

校長：今年もコロナの2年目で、4月中旬から6月初めまで感染者が発生、2回目（8月8日から10月中旬まで）、3回目（1月初めから第6波という中で、半年以上コロナの影響で思うような学校行事ができなかった。このような中で学校目標として進級・卒業率を97%と掲げて取り組んできた。その結果、高校で95.9%ということで、転退学者が昨年より増加したことが目標に届かなかった原因である。専攻科は96.3%で6名が退学である。コロナ禍であったが出席率は97.85%と高かった。遅刻30回以上は2.8%で変わらず、50日以上の方欠者はいなかった。精進助賞は年々伸びており50.1%と約半分の生徒が受賞しており、他校の校長に尋ねたところ、このように高くはないと聞いている。成績優秀者も全教科平均80点以上が42.4%と昨年より5%程度伸びている。逆に単位未修得は8.7%であった。また、各種検定取得についても各検定伸びている。特に総ビの簿記・情報処理・電卓等の各検定の合格者の伸びが「資格＝就職」に結びついていっていると考えている。部活動の表彰も202名以上の生徒が表彰を受けている。看護師国家試験については81名中64名の合格。79%の合格率ということで、大変厳しい結果であった。問題が易しかったのかもしれないが、10点以上昨年より合格ラインが上がっている。今までは7割を目指してと言っていたが今後は8割を目指して頑張るように伝えていこうと考えている。先生方の自己評価と保護者のアンケートについては、質問内容が必ずしも一致していないため、同じような質問項目についてピックアップしてまとめてみた。学校運営：教育方針の反映・学校生活・基本的な生活習慣で自己評価では94.7%ができているが、保護者では70.0%とコロナの影響もあったと思うが例年と同じ位の保護者アンケートの結果であった。次に、学習指導については教師は95%くらいがまあまあできていると答えているが、保護者のほうでは7割となっており、昨年より少し下がっている。特に、「わかりやすい授業」「ちゃんとできていないのではないか」という保護者の意見が39%程度であり、すこし増加した。その原因は休校で授業がなかったということ、学級閉鎖等で各クラスバラバラとなり、中間調査や期末調査が1回の同じ期間に実施できなかったということで、教師の自己評価でも指導はできていたと思うが、時間が十分確保できなかったという反省もあった。もう一点は、「家庭学習はできているか」という質問に対し、「できていなかった」という回答が53.1%であり、コロナで休みが多かったということもあり、なかなか子供が学習に目が行っていないのではないか、課題等も出たという回答が多かったというところが、今年の大きな反省点である。生徒指導のほうでは、78%程度は「ある程度できていた」という評価であった。生徒指導事案としては、これもコロナの影響があるのではないかと思考が、今年17件発生した。内容で一番多かったのがSNSやインスタグラム・ティックトックへのアップに関するものであった。どんな内容をアップしたかという教室でダンスしているところをアップしたもの、飲酒喫煙・カラオケをしているところをアップしたことで分かったもの、深夜徘徊・タバコ所持・カンニング等であった。そのほか、クラス・生徒会・学校行事に熱心に取り組んでいるという項目では、行事自体ができなかったため保護者の意見でも3割以上が「できていない」という回答であった。それから、授業参観、学級懇談会、学校行事への参加では行事がないため、6割以上が「できていない」という回答であった。保護者の意見では、教室への移動の際に市道を横切するため心配である、教師の不適切な言動が気になったというご意見、安心メールの内容がわかりづらい、教室内で携帯電話の不携帯についての指導の徹底、廊下やごみ箱の掃除の徹底についてのご意見等があった。掃除については、生徒の数に対して掃除する箇所が多く、監督する先生が足りない状況があること、新築したこと建物密閉性が高まって、軽いゴミや女性の髪などが人が動くことで隅のほうに溜まって目立つようになっている。また、コロナ対応で25分の短縮授業・昼食をとらせなくて下校させたが、その分の授業の補充ができていなかったのではないかと、行事や実習等も中止になって授業内容や時間不足が心配である、受験対策や情報が十分伝わってこなかった、受験指導の言葉に不信感があった、コロナ禍で既存のアンケートでは、何となくも評価アンケートの中で、コロナ禍で既存のものではあまり意味がない。それゆえどちらとも言いえないと回答せざるを得なかった。学校内のことばかりで保護者としては当てはまらないというご意見であった。

<委員>特に、私からのコメントすることはない。昨年も発言したが、先生たちが立派にやられているからこのようになっていると思いますが、十数年前と比較すると格段に生徒の質が良くなっていると思う。

<委員長>私も同じように思う。以前は私たちがさえ警戒するような生徒達がいいたと思うが、最近はそのような生徒を見かけない。良くなっています。

<委員>直接少年補導であったりなどの部分は、直接警察官のほうで担当して学警連携で学校に連絡してもらっているが、他校と比較すると報告件数が少ないのではないかと。他校で多いのは部活動の生徒で、コロナ等で練習できなかったり、試合に出られなかった鬱憤を晴らすためか、飲酒の画像をインターネットにアップした事案が結構あった。そういったこともあり、スマートフォン等の使い方を他の犯罪に巻き込まれないという観点からも指導を十分していく必要があると思う。去年は1年生対象に、スマートフォンの講話をさせていただいたので今年度も必要があれば連絡していただければ対応したい。

<委員長>最近の中央高校生はよくなったというのが第一印象である。私も学校の近所だが、通勤の際に中央高校生の交通マナーが良くなってきていると感じる。道路に広がって歩いている場面も見かけないし、服装にしても非常に良くなってきているというのを感じられ、生徒たちの品格も上がってきているのではないかと。一番気になったのは転退学者が増加したという点であるが、自主退学が多かったのか？

<学校長>中学校で不登校を経験しており、高校生になって頑張っていたが2年になり、クラス替えで人間関係が崩れて欠席が続き、結果的に転学していった生徒が今年も多かった。本校ではただの退学であれば、単なる中卒扱いとなるためできるだけ高校卒業の資格を取ってほしいということで、どこかの進学学校につながるよう指導している。

<委員長>進学率はどのような状況ですか。

<学校長>今年は圧倒的に進学が多い。就職は40名程度であり、コロナで求人が減ると思っていたが増えていた。子供たちは圧倒的に進学を考えており、求人が来ても該当者がいないという状況であった。

<事務長>県外の上場企業などから先に埋まっていくために、地元の企業のほうに就職する生徒が少ない。

<学校長>普通科・総ビ科の進学率は8割位が進学となり、今年は特進コースで国公立大学に6名合格したため福岡教育大学、北九州市立大学、福岡女子大学、宮崎公立大学、熊本県立大学（2名）に合格した。

<委員長>高校3年間で自分が将来やりたい仕事だと目指すところをなかなか見いだせないことが要因でないかと思う。高校時に是非自分の将来像を意識させるような教育も今の時代必要なことと考えている。専攻科の国家試験の成果が今年度は非常に気になりました。校長先生からもあった、レベルという平均点が上がっているのも原因とあったと思うが、今の現役の学生にも伝えていただいて、目標点数80点を目指してほしい。あと、出席率も含めて目標は97%とたてていただいているが、各項目について数値目標（皆勤率など）を我々にも示していただければありがたい。

<学校長>生徒の半分が精進助になるのは他校ではそんなにはないということで、本校の教育目標としては社会に出るための準備をする3年間、生徒には3年間で10日を超えることと推薦は厳しいと言っているため、保護者もこの点は認識していただいているのではと考えている。

<委員長>先生たちの自己評価と保護者アンケートの結果が大きく開きすぎていることに関して、穴埋めというか保護者の方にも学校の取り組みをもう少しわかっていたらいいと思う。メールで伝わり方が悪いなどの意見があるが、せつ々学校が愛情をもって生徒たちにしっかり教育をやっているが、残念ながらそれが家庭まで届いていないのが実情ではないか。私たちは先生を見て本当一生懸命やっておられるますが、それをもっと保護者の皆様にもわかっていただければいいのだと思う。保護者の方にも生徒からだけでなく学校の取り組みを見ていただければいいし、それを伝える手段があればこの溝の開きがなくなるのではないかと。

<学校長>成果に限らずいろいろな行事でやったことについては、ホームページのブログに載せていっている。意識していただいている保護者方は、いつもご覧になっていて学校の様子がわかっているという意見があるが、学校の様子がわからないというご意見の方は、ブログのことを知っておられないのではないかと。今は生徒も保護者もスマートフォンなので、インスタグラム等にアップをしているのを見られるにはしているが、その点は情宣ができていないのかもしれない。

<事務長>ホームページも新しく改訂中で、4月になったら変わる予定である。

<教頭>メールがわからないというご意見は、多分コロナの感染状況のメールでないかと思えます。感染者や濃厚接触者が急激に増加した時期に、今までのように感染者やその接触状況や検査結果報告および感染者が誰なのか推測されなかった文章表現に大変苦慮した時期がありました。そのため、途中から簡潔に必要な内容を配信するように変更しました。

<委員長>熊本も感染者が減らない状況ですし、蔓延防止も解除となったがもう少し今から増加するのではと思われま。学生の皆さんの感染が増加しているよく聞くので学校としても感染対策をこれからもしていただきたい。

<委員長>今度、新入生は何名入学するのでしょうか？

<学校長>283名入学します。263名の予想でしたが、予想以上に入学者が増えて教室が足りないため、目いっぱい10クラスに入れた。定員は320名ですが建物のキャパシティが280名ほどなので実定員充足となっている。

<委員長>新入生も283名ということで安心しました。4月なれない時期の通学になるので、一番怖いのは交通事故です。高校生の交通事故も4・5月に一番多く起こっていると思うので、中央高校からそういったことが発生しないように、交通ルールについても見つめる場や教育する場、立ち番指導したりすることも必要でないかと思う。

<学校長>その他に、女子トイレ増設の要望がたくさんあった。

<事務長>今年、女子トイレを和式を一つ残した以外はすべてウォッシュレット式に交換したので、だいぶ使いやすくなると思う。ジェンダーだとか体の少し不自由であるなど多様な生徒への対応として、多目的トイレも2か所設置している。

<学校長>今、ジェンダーの生徒がいるが、男子の制服を着ている。新しい制服は卒業までには間に合わない。ジェンダー対応を含めてスラックスを作ってみたが、女子制服に合わない。女子制服は人気があるが、ブレザータイプの制服を検討している。下はスカートでもスラックスでも選択できるように考えている。

<委員長>いじめにつながるようなことはないのですか？

<学校長>私としては、ある学校で男子の制服・女子の制服・中間の制服を作ったと聞き、実際見てすぐに違ふとわかった。これはこの子がジェンダーだと言っているようなものではないかということで、職員に差別につながるような中間の制服はやめようとした。

<委員長>学校も120周年に向けて難しいとは思いますが、事故とかないよう今年度もよろしくお願いたします。

#### 5 総合評価

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事の中止・延期を余儀なくされ、授業・実習等も短縮や学内・リモートでの実施となり、全ての活動において支障をきたす状態であった。学校運営ははじめ学習・進路・生徒指導等ではおおむね理解・協力を得られているが、授業や行事への参観の機会を設けられなかったことや学習指

導方法や教材の工夫によるわかりやすい授業づくりへの改善、必要性やコロナ禍の休校・学級閉鎖措置も含めた学習時間の確保及び家庭学習時間の在り方と様々な生徒指導での人格の尊重など、次年度へ向けての課題として考える。

また、コロナ禍にあっても生徒の出席率、卒業・進級率、進学・就職率や資格検定合格率等も高いレベルで維持できており、改善と向上が進んでいると考える。それ故、今後もこれらの指導充実に努め、継続していきたい。

#### 6 次年度への課題・改善策

学校運営においては教育方針に基づき実行し、学習・進路・生徒指導等に全教職員が一致協力して取り組み、生徒の目標と自己実現の達成に向けた支援・指導を行い、生徒一人ひとりの個性の把握に努め、成長につなげられるように、また、「わかる、できるようになる」学習指導と授業改善に向けて取り組み、生徒に寄り添い心身ともに健康・健全な成長の促進に努力していくこととする。また、生徒の健康と安全を確保するための指導を心掛け、新型コロナウイルス感染症予防のための観察・指導の徹底を図るとともに、交通ルール・マナーの順守と安全指導の徹底に向けて努力していくこととする。

令和3年度 学校評価（自己評価・関係者評価）について報告します。

令和4年5月16日






学校法人 加寿美学園

熊本中央高等学校

理事長 竹下 英 様

熊本中央高等学校

学校長 池田 廣

決裁	理事長 竹下 英 	学校長 池田 廣 	教頭 古澤 哲 	事務長 柴田 徹 	事務次長 橋本 孝 
----	--	--	---	--	---